

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520671

研究課題名(和文) ルーブリックとポートフォリオを利用した英語教員養成プログラムの研究

研究課題名(英文) A Study of a New Aspect of English Teacher-training Course Using Rubrics and Portfolios

研究代表者

今井 由美子 (Imai, Yumiko)

同志社女子大学・その他部局等・准教授

研究者番号：70450038

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：(1)ポートフォリオをより効果的に活用するためには、適切な時期に教員からの指導および助言が必要である。教員と学生とのやりとりだけでなく、学生同士で見せ合う、記録内容について相談や確認、発表を通し仲間からの刺激を期待できる。自らに課された活動や課題のもつ意味を客観的に見つめる機会を得、教員としての視点で考えることを意識させるツールとしてポートフォリオは有効に活用できる。(2)自律的学習を成功させるポイントは、学習者の強い学習意欲とその意欲をサポートするための学習環境を教員は考え提供すること、学習者自身が「意味のある選択ができた」と実感する機会を設けること、学習者に自己選択をさせることである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this three-year research was to focus on how to develop Japanese EFL learners' autonomy and motivation through keeping records in their portfolios.

研究分野：英語教育、教職課程

キーワード：ポートフォリオ 教職課程 自律学習 動機づけ

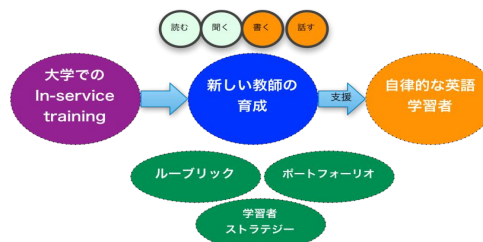
1. 研究開始当初の背景

文部科学省新学習指導要領 (2008, 2009)にも示されたように「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度及び英語コミュニケーション能力の育成」は、英語教育の重要な目標であり、ますますグローバル化しつつある現代日本社会においても急務の課題である。この目標に近づくためには、教室外で英語を学習することの重要性、自律的学習者の姿を明らかにすることの重要性、

英語教師養成プログラムの抜本的改革の必要性、4 skills を重視する英語教師養成プログラムの必要性、の4点が重要であると考え、本研究では、学習者自らが英語コミュニケーション能力向上を目指す自律学習に取り組めるよう、支援する英語教員養成の大学教職課程プログラムの構築を検討し、その有効性を検討することとした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学の英語教員養成において「ルーブリックとポートフォリオを利用した英語教員養成プログラムの研究」を次の3点に焦点をあて構築することである。(1)自律的学習者とは何かに関し、先行研究文献を元にした研究及び質問紙による調査を行う、(2)英語教職課程受講生に対し、学習ストラテジーと音声学習という観点から、自らが英語学習者という立場において自律的学習に取り組ませ、同時にルーブリックを作成し各自のスピーキングの能力の評価をさせる。受講生はリフレクション(振り返り)をポートフォリオに記録し、その2年間の記録から自律的学習者育成のための英語教員養成プログラムの原案をまとめる、(3)新たな教員養成プログラムの原案を策定し、その後有効性を検証する。



3. 研究の方法

(1)「自律的学習者とは何かを探る：『振り返り』と『ポートフォリオ』を用いた教員養成課程における試み」

調査方法

a. 『振り返り』に関する質問紙予備調査

自律的学習者の要素を探索するために、「授業をどのように振り返っているか」「テスト・スコア(テスト結果)をどのように活用しているか」「返却されたエッセイ、レポート、小テストをどうしているか」「『授業を振り返ること』についてどう考えているか」の4つのテーマについて、英語英文学科1年～4年生358名(1年生147人、2年生140人、3年生32人、4年生39人)を調査協力者として自由記述式調査を行った。

b. 質問紙作成および調査実施

4つのテーマについて予備調査で得られた67項目を整理し、1)授業を振り返ること、2)テスト・スコアを受け取った後の活用方法、3)返却されたレポート、エッセイ、小テストの扱い、4)普段の授業の振り返り、の4部門40問から成る「『振り返り』に関する質問紙」を作成した。英語英文学科教職課程履修中の4年生36名を調査協力者とし、「振り返り」に焦点をあてた自律的学習への取り組みを調査した。

c. 結果と考察

質問紙調査の結果から、学生たちは振り返りの重要性は認めた上で、与えられた課題、コメント、点数などをきっかけに振り返りの行

動を起こしていることがわかった。一方、授業に関連した事柄をさらに自主的に調べること、それらについてより深く考える時間を割くことについては消極的であることがわかった。与えられたきっかけをもとに行う振り返りを重ねることで、与えられずとも自ら振り返りを行ない、さらに探究するという自律的学習につながるとすれば、きっかけを与えつつ、後者につながるヒントをも与えることが大切であると考え。

教職課程ポートフォリオ

a. 教職課程のポートフォリオの扱い

調査協力者の在籍する大学の教職課程履修生には、文部科学省から提示された原案をもとに同大学の教職課程センターが中心となって作成したポートフォリオ「教職課程履修のあゆみ」(同志社女子大学教職課程センター、2011)が配布される。ポートフォリオ配布時期は、教職課程履修生の現4年生に対しては2年次の7月に『教職論』のクラスにて配布された。クリアファイル(A4版30ポケット)と必要ページが配られ、学生は随時記入し各自でページを差し込む形式である。配布の際には、教職課程センター職員がフローチャートを用い、記入方法や提出時期などの具体的な指示および説明を10分程度で行なった。1度目の「あゆみ」の回収は、3年次の秋学期最終日に英語科教科教育法の授業で行ない、4年次の4月に教育実習の授業で学生に返却した。2度目は同授業内で4年次の春学期最終授業日に回収し秋学期の初回授業において返却、3度目は12月に回収し1月の最終授業において学生に返却した。

b. ポートフォリオ記入内容への考察と提案

ポートフォリオには記入項目として、履修科目の内容に関する今後の課題、活動記録、テーマ別学習、自己評価シート、評価記録、があり、～は履修学生が、は教

職指導教員が記入する。

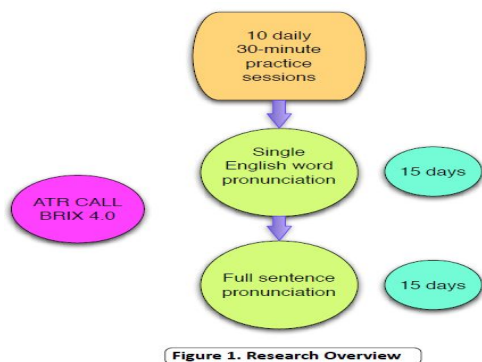
学生から提出されたポートフォリオを確認し判断できることは、教職課程ポートフォリオ配布時期、教員による回収および確認時期、提出回数を再考するとともに、ポートフォリオの存在を常に学生に意識させる必要があることである。記入の仕方を具体的に示すことで、より充実した振り返りにつながる。その他、教職関連の授業で作成したレポート、模擬授業の評価およびコメントなどもポートフォリオに保管するように声掛けをし、より積極的かつ効果的にポートフォリオを活用していく環境を整えることが重要である。

(2) : 「自律的学習者とは何かを探る : 教員養成課程における発音トレーニングを用いた自律学習と動機付けの育成の試み」

a. 調査方法

調査協力者は次年度教育実習を控えた教職課程「英語科教科教育法」の受講生44名であった。個人差はあれ、英語学習者、とりわけ教育実習を控えている者にとっては発音を向上させることは切実な願いであるといえる。発音トレーニングについて「発音」向上のための自主的課題を検討し、2期4週間(7月末および9月末の2週間の練習期間)のトレーニングの「機会」を提供した(指導ではない)【学習環境の整備】。この機会を受講生全員に提供するが、e-learningを使用した発音トレーニングを「どのように用いるか」は個人に委ねるものとした【意味のある選択による自主的な取り組み】。課題はATR CALLBrix 4.0 (©2013 ATR Learning Technology Corporation)を利用した。ATR CALL Brix 4.0に用意されているTOEICレベル別問題にはさまざまな学習教材があるが、本調査のために発音(単語、短い文を音読)に特化した項目を10回分抽出した。受講生には他の学習教材に挑戦するようあえ

て指導はせず、自主的に発音練習から広がる学習機会の利用を期待した【自己選択で学習の機会を拡げる】。Figure 1 はトレーニングの流れをまとめた。



2 期とも 2 週間のトレーニング期間中には、各自の取り組みについて毎回記録させ、トレーニング終了後に質問 10 項目のアンケート調査を行った。10 の質問は次の通りである。

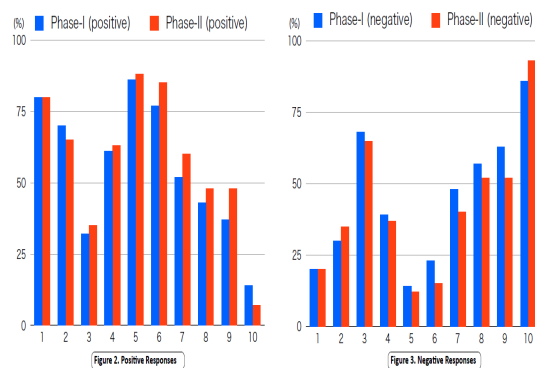
- Q.1 やってよかったと思う。
- Q.2 トレーニングにより自分の発音が上達したと思う。
- Q.3 自分の発音に自信がもてるようになったと感じる。
- Q.4 発音のコツがつかめたように感じる。
- Q.5 自分の弱点がわかったように感じる。
- Q.6 発音がうまくなると、自分自身にも自信がついたように感じる。
- Q.7 自主的に学習する習慣がついたように感じる。
- Q.8 ATR CALL Brix は使いやすかった。
- Q.9 練習時間を十分に取ることができた。
- Q.10 ATR の他のプログラムも利用してみた。

回答は「1：全く当てはまらない」「2：当てはまらない」「3：あまり当てはまらない」「4：やや当てはまる」「5：当てはまる」「6：よく当てはまる」の 6 段階の尺度を用い、マークシートを利用した。

b. 調査結果

質問に対しての回答を集計し、振り返ること

に関する記述統計をまとめ、Figure 2 および Figure 3 はその結果をまとめた。



青色は 1 期（7 月）、赤色は 2 期（9 月）を表す。各質問項目に対して「6：よく当てはまる」「5：当てはまる」「4：やや当てはまる」に回答したものを「肯定的回答」、「1：全く当てはまらない」「2：当てはまらない」「3：あまり当てはまらない」に回答したものを「否定的回答」として%で表した。

10 問の質問において、調査協力者全員が肯定的に回答したのは、Q1（やってよかったと思う）、Q2（トレーニングにより自分の発音が上達したと思う）、Q4（発音のコツがつかめたように感じる）、Q5（自分の弱点がわかったように感じる）、Q6（発音がうまくなると、自分自身にも自信がついたように感じる）、Q7（自主的に学習する習慣がついたように感じる）の 6 項目であった。特に Q1 および Q5 では 80%以上の受講生が、また Q6 では 75%以上の受講生が 1 期、2 期とも肯定的回答をしており、英語学習において受講生が発音の練習機会を強く求めていること（Q1）、トレーニングをすることで発音における弱点を明確にすることができたこと（Q5）、トレーニングを行うことで発音がうまくなったと感じ、自分自身への自信につなげていること、の 3 点が明らかになった。70% 近くの受講生がトレーニングにより発音が上達したように感じ（Q2）、60%の受講生が発音の際のコツをつかんだと感じている（Q4）ものの、65%の受講生が自分の発音に

自信が持てるようになったと感じるまでには至っていない(Q3)という結果となった。ATR CALL Brix を利用することへの問題は特になく(Q8)、課題として与えられた発音練習を行うための時間は確保することができたようである(Q9)。しかしながら、ATR CALL Brix には課題以外の英語学習教材が豊富に用意されているが、これを機に英語学習を自主的に試みようという姿勢は見受けられない(Q10)。

c. 考察

調査結果より、自律的学習を成功に導くためのポイントを、1)【環境整備】→自律学習を成功させるためには学習者に強い学習意欲がないと成立が難しいため、その意欲をサポートするための学習環境を整え提供するのが教員の役目である、2)【意味のある選択による自主的な取り組み】→学習者自身が「意味のある選択ができた」と実感する機会を設けることが自律性を高める、3)【自己選択で学習の機会を拡げる】→学習者に自己選択をさせることで、自分の行動やその結果に対し自己の責任性を高める、の3点とした。

4. 研究成果

本研究の目的は、大学の英語教員養成におけるルーブリックとポートフォリオを利用した英語教員養成プログラムを構築することであった。3年間の研究を通し、明確になったことは次の2点である。

(1) ポートフォリオの活用：学生らが自らの学びについて振り返る際、ポートフォリオをより効果的に活用するためには、適切な時期に教員からの指導および助言が必要である。ポートフォリオを通して教員と学生とのやりとりだけでなく、学生同士で見せ合う、記録内容について相談や確認、発表する活動など組み込むことで仲間からの刺激を受けることが期待できることもわかった。また、

学生として自らに課された活動や課題の持つ意味を客観的に見つめる機会を得、教員としての視点となって考えることを意識させるツールとしてもポートフォリオは有効に活用できるものである。

(2) 自律的学習を成功に導くためのポイントは、自律学習を成功させるためには学習者に強い学習意欲がないと成立しにくいものであるため、その意欲をサポートするための学習環境を、教員は考え提供すること、学習者自身が「意味のある選択ができた」と実感する機会を設けること(→自律性を高める)、学習者に自己選択をさせること(→自分の行動やその結果に対し自己の責任性を高める)である。

なお、当初の目的であったルーブリックの構築については、諸事情により完成までには至っていない。この3年間の研究の成果を活かしルーブリックを完成するまで研究を継続していく所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

今井由美子・大塚朝美・若本夏美(2014)「自律的学習者とは：『振り返り』を用いた教員養成課程における試み」同志社女子大学総合文化研究所紀要 第31巻, 124-134。(査読あり)

〔学会発表〕(計2件)

Yumiko Imai, Tomomi Otsuka, Natsumi Wakamoto (2015) “Developing Japanese EFL Learners' Autonomy and Motivation Through Pronunciation Practice in an English Teacher Training Course” (Poster presentation) The 2015 conference of the American Association for Applied Linguistics (AAAL), Toronto, Canada. 2015年3月22日

今井由美子・大塚朝美・若本夏美(2013)

「自律的学習者とは—『振り返り』を用いた
教員養成課程における試み」全国英語教育学
会 第39回北海道研究大会北星学園大学(札
幌市) 2013年8月10日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

今井 由美子 (Yumiko Imai)
同志社女子大学 表象文化学部 准教授
研究者番号：70450038

(2) 研究分担者

大塚 朝美 (Tomomi Otsuka)
大阪女学院大学・短期大学
国際・英語学部 専任講師
研究者番号：80450039

(3) 研究分担者

若本 夏美 (Natsumi Wakamoto)
同志社女子大学 表象文化学部 教授
研究者番号：50269768